

[講演要旨] 日本歴史地震総表について

石井 寿(東電設計株式会社)・宇佐美龍夫(東京大学名誉教授)

宇佐美は,昭和 47(1972)年歴史地震の調査開始以後,膨大な史料を収集し,その成果は昭和 50(1975)年「日本被害地震総覧」の刊行に至る。これは武者金吉の「増訂大日本地震史料」を参考として,地震学の知見を反映した,日本に被害をもたらした歴史地震の資料である。さらに歴史地震の史料集として昭和 55(1980)年に「新収日本地震史料第一巻」を刊行,この史料集は,地震の発生時期と有感地名,地震記事を収録したものであり,其後調査の進展に伴い連綿と史料集が刊行され,昭和 63(1988)年には第五巻別巻 2 冊まで 17 巻の史料集に至る。更に史料収集は継続され,「新収日本地震史料補遺・続補遺」,「日本の歴史地震史料拾遺一〜五」,総計 29 巻として結実し,歴史地震の調査研究に不可欠の史料群となっている。

これらの史料は,歴史地震の発生時期と被害の様相が詳細に記載されており,個々の歴史地震の検討には必須である。その一方,被害を伴わない有感地震の記事もまた膨大にあり,地震活動の検討には不可欠である。かかる観点から宇佐美らは歴史地震の発生時期と有感地名,軽微な被害記事などの整理を開始し,ここに「日本歴史地震総表」を作成した。

この表は,歴史地震の史料収集開始以来,平成 25(2013)年末までの史料調査の結果を反映,日本書記から鹿児島県史料斉彬公史料第二巻に至るまで,全歴史地震,総数 24,000 余を記載した資料,歴史地震の総カタログである。

総表の構成は第一部の本表約 400 頁,第二部の余震の表約 50 頁から構成されており,第一部本表は歴史地震を時系列で記載されている。また,有感地が複数・広域にわたっている地震については検討の便宜のため震源分布図を作成し,本表に付してある。第二部余震の表は,天保元年 7 月 2 日京都の地震など,余震を詳細に記載した史料が豊富な地震について余震の発生状況を詳細に記載したものである。本表の一部を下表に示す。

本表は,今後の史料調査の進展に伴い,適宜改訂される予定であり,新たな史料が見いだされた場合には本表に反映したいと考えている。また,歴史地震の検索,地震発生の時空間分布の検討に利することを目的として,電子化を計画・準備中である。歴史地震の検討に広く活用されることを望む。

謝辞: 歴史地震の史料収集には史料の所有者の方々,史料を保管整理されている諸機関等,実に多くの方々の協力を頂いた。ここに記して謝意を表す。

表 日本歴史地震総表(第 1 部本表: 抜粋)

No.	和暦				グレゴリオ暦			時刻	有感地名 [ ]内は備考, No.: 日本被害地震総覧 地震番号, ( )は被害地名
	年号	年	月	日	年	月	日		
2695					1596	4	3	夜	登米
2696		慶長	1	5		5	28		伊豆, 飯田
2697				7		7	26		大分
2698				7		8	4		津軽E、登米 [閏7・13の地震の誤伝? 正史になし]
2699				7		8	8		大分
2700				7		8	9		大分
2701				7		8	15		大分 (7月23~28日, 1日に5~10回)
2702			閏7	4		8	27		大分
2703			閏7	5		8	28		大分
2704			閏7	9		9	1	戌	京都E*3??、薩摩E、e、讃岐E、杵築(ツナミ)、東子E 別府湾の地震 [No.081, λ=131.6°E, φ=33.3°N, M=7.0±%]
2705			閏7	13		9	5	暁子	伏見大地震 [No.082, λ=135.4°E, φ=34.8°N, M=7%±% 余震は別表]